



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## からだの病気と歯科治療

高齢者歯科 科長 佐藤 裕二

高齢者(65歳以上)の方が24.1%(2012.9推定)と全人口の約1/4を占めるまでになりました。65歳というと、まだまだお若くお元気な方も多のですが、潜在的に病気をお持ちの方も多くいらっしゃいます。

高齢者歯科では、70歳以上の方と65歳以上で何らかのご病気をお持ちの方を担当しています。もちろん、紹介であれば、お若い方やインプラント治療も他の診療科と連携して担当させていただいております。

当科で担当させていただいた患者さんのご病気についてグラフで示します。半数以上の方が【高血圧】です。高血圧の方は、ストレスがあると脳出血などを生じやすいので、「内科と連携して血圧をコントロールする」、「なるべくストレスを減らす」、「麻酔薬を選択する」などの対応をとらせていただいております。

次に多いのが【心疾患】です。心筋梗塞で6ヶ月以内、狭心症で3ヶ月以内は大がかりな歯科治療は行わないことになっています。なお、心臓に病気をお持ちの方は、「血を固まりにくくするお薬」を飲まれていることが多いです。血が出る歯科治療の時は、以前は薬を中止してもらっていたこともありますが、今は、血の固まりやすさを検査して、内科の先生と相談して治療を行うようにしています。

【糖尿病】の方は、感染しやすく、傷が治りにくいので、歯周病が進んだり、抜歯後の傷の治りが悪かったりしますので、注意が必要です。内科で血糖値をうまくコントロールすることが大切です。また、お口の中をよりきれいにすることも大切です。

その他、意外と注意が必要な病気に【骨粗鬆症】があります。「ビスフォスフォネート」という薬を

飲まれている場合には、抜歯などの後に、傷が治りにくく、顎の骨に炎症を生じることが稀にあります。骨粗鬆症は歯科治療とあまり関係ないと思わず、正確に担当医にお知らせ下さい。



その他の病気も重要です。初診時にはご病気が無くても、途中から病気になったり、病気の状態が変化した場合にも、「歯科とは関係ない」と思わずに、お知らせください。病気の状態を踏まえた上で、安心・安全な治療を心がけています。

なお、「私は病気と無縁」と自信たっぷりの方に、案外隠された病気がある場合があります。定期的な健康診断が重要です。当院の総合内科でも診察を行っておりますので、担当医にお気軽にご相談ください。

からだの病気を踏まえた上で、いくつまでも、お口の健康を増進することが、当科の使命です。



## 高齢者歯科紹介

私ども高齢者歯科では、年齢が70歳以上の患者さんと65歳以上で基礎疾患があり、お体の状態を観察しながら治療を行わなければならない患者さんや、医科の先生との連携が必要な患者さんの診療を行っております。いわゆるご高齢の患者さんの一般歯科診療を行うところだにご理解いただいております。

認知症や歯科恐怖症などのため精神鎮静法の併用が必要な症例は、歯科麻酔科、口腔外科をはじめとする各専門診療科のご支援をいただき治療を展開いたします。しかしながら、ご高齢な方々の歯科的問題点の多くは入れ歯やかぶせ物に起因するため、その分野(補綴治療といいます)に特に豊富なノウハウがあり、得意としております。

主任教授の佐藤裕二以下15名の医局員と14名の大学院生の総勢29名で外来診療にあたっておりますが、昭和大学口蓋裂診療班(SCPT)や顎変形症・口蓋裂のチームアプローチ(MFC)、障がい者歯科における専門的補綴処置、インプラント治療、医学部関連病院における口腔ケアセンターや、施設への訪問歯科診療なども担当しています。それゆえ、日本老年歯科医学会、日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会の指導医・専門医を中心としたチーム診療体制を構築し、患者さんには充実した高度先進医療を、学生一臨床研修医一若手ドクターには一般診療から専門分野までのきめ細かな指導を提供できるよう努めております。

外来設備では、治療中の血圧や血中酸素濃度をリアルタイムに監視できる生体情報モニターや心が落ち着く笑気吸入鎮静器、訪問診療に対応できるポータブル歯科用ユニットなどを揃えています。また、脳梗塞や心筋梗塞発作の予防のために抗血液凝固薬(ワルファリンカリウム)を服用され

ている方には、抜歯などでの止血に問題がないか確認できる検査キットが外来に完備されています。また近年では、骨粗鬆症の予防のためのBP製剤(ビスフォスフォネート製剤)の長期投与に起因する抜歯時の顎骨壊死などが報告されています。その様な患者さんへの対応もさせて頂いております。

近年の長寿社会では、歯科の二大疾患である虫歯や歯周病に加え、お口の乾燥に起因する違和感・義歯の不調など、かつては稀であった症状で困っていらっしゃる方が増えています。これらは、食べる、話すといった生活の基本部分の質を大きく低下させますが、完治が困難なため「CURE(治療)よりもCARE(ケア)」するアプローチが重要です。お口の乾燥状態を検査する機器を導入し、必要あれば唾液の分泌を助けるマッサージ法のご指導や保湿ジェルなどもお勧めしております。また、お口の臭いや違和感の原因となるカンジダ菌の検査や、舌の清掃用具のご紹介、脳梗塞の後遺症などで手のご不自由な方に扱いやすいブラシの導入といったような、日常をより快適にするケアも行っております。

超高齢社会を迎えた日本において、健やかに日々をお過ごしいただけるよう微力ながらお手伝いをいたしたく、医局員一同、日々診療に取り組んでおります。

(高齢者歯科 医局長 七田 俊晴)



昨年4月の保険改定で、口腔や顎骨の良性腫瘍、外傷あるいは口唇口蓋裂などの先天異常等によって顎骨に欠損が生じ、今までの歯科治療では咀嚼機能の回復が困難であった患者さんに対するインプラント治療が「広範囲顎骨支持型補綴」という名称で保険適用されました。口腔癌の手術を受けた患者さんではインプラント治療を適用することで義歯の安定性が飛躍的に改善し、それまで食べられなかったものも良く咬めて美味しく食べられるようになります。また、口唇口蓋裂の患者さんでは、顎裂部に骨移植を行ってからインプラント治療を行うことにより、口腔機能だけでなく審美性の回復も得られるため、満足度の高い治療が可能となります。したがって、口腔癌や口唇口蓋裂など、原疾患の治療を受けることだけでも肉体的、精神的そして経済的に大きな負担を強いられてきた患者さんには、インプラント治療が保険導入されたことは大きな福音であると言えます。

保険適用のインプラントが通常のインプラントと大きく異なる点は、前述の適応症に加え診療施設ならびに使用できるインプラントの種類が厳しく規制されていることです。また、口腔外科、補綴歯科、インプラント歯科、矯正歯科、口腔リハビリテーション科など関連する診療科によるチームアプローチが必要な点もこのインプラントの特徴です。例えば口腔癌の切除手術では、顎骨、舌あるいは歯肉・粘膜などに組織欠損を生じるため、術後に重篤な機能障害をきたすことが少なくありません。このような患者さんにインプラントを適用する場合には、骨移植や粘膜移植などによる欠損組織の再建が必要となります。また、手術後に癌化学療法や放射線治療が行われる場合もあり、そのためこれらの癌治療に関する専門的な知識も不可欠です。一方、いかに優れた再建手術がなされても、手術で

失われた顎口腔領域の解剖形態を元通りに修復することは不可能であり、そのため、口腔機能ならびに審美性の回復には、補綴歯科に関する高度な技術が要求されます。

したがって、保険適用のインプラントは通常のインプラント治療には無い、より高度で専門的な知識・技術を結集して初めて実現が可能となる先進的な歯科医療であると言えます。当院におけるこのインプラント治療は口腔外科が中心的な役割を担い、既に25年以上の臨床経験があります。この保険適用のインプラントについてより詳しい説明を希望される方は、お気軽に口腔外科へご相談下さい。



治療前口腔内所見



歯肉再生手術後



義歯装着時

## 診療科長・センター長 就任のご挨拶



平成25年4月1日付けをもちまして、  
歯科放射線科の科長に就任いたしました。  
来る6月よりPACS(画像保存通信システム)が導入されます。これは  
各撮影装置から画像データを保管・  
転送・参照するシステムで、フィルムレスの管理が  
できます。各診療科に配置されたビューアで担当  
医と患者さんが一緒に画像データ見ることができる  
ことや画像診断の効率化が図れることなど多くのメ

リットがあります。また、それに伴い画像検査の予約  
からレポートの作成や管理までを行うシステムであ  
るRIS(放射線科情報システム)が導入されます。い  
ずれも患者さんにとってより良い環境を目指したシ  
ステムでありますので、これらの適正な運用ができ  
るように歯科放射線科スタッフがー丸となって鋭意  
努力する所存です。皆様方のご協力を心より願  
い申し上げます。

歯科放射線科 科長 佐野 司



平成25年度4月1日付けで、スペ  
シャルニーズ歯科センター センター  
長に就任しました弘中祥司です。どう  
ぞよろしくお願い致します。スペシャル  
ニーズ歯科センターは歯科病院の1  
階の放射線部門の隣に位置しております。本セン  
ターは歯科治療に特別な配慮が必要(Special  
Needs)な、種々のご病気のある子供さんから高齢  
の方まで、多くの皆様の歯・口の総合的な診療科と  
して歯科病院に新しく開設されております。障がい

者歯科の船津診療科長や診療スタッフ、そして口  
腔衛生学部門の診療スタッフと協力して、種々の  
障がいのある方の口に関連した様々な問題をチ  
ームで取り組んでおります。むし歯や歯周病などのい  
わゆる歯科的疾患と、食べたり飲み込んだりがうまく  
できない摂食・嚥下機能障害とを総合的に診断し、  
お口の中全体の治療と形態的・機能的回復および  
その後の健康管理をチーム全体で行ってまいります。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

スペシャルニーズ歯科センター センター長 弘中 祥司



平成25年4月1日より、榎宏太郎  
教授が昭和大学歯科病院長に就任  
したため、矯正歯科科長代理を拝命  
致しました。病院長主宰の診療科と  
して貢献できるよう頑張りますので、  
よろしくお願い申し上げます。

さて近年、矯正歯科のニーズは多様性を増し、小  
児矯正から成人矯正、補綴・歯周病のための歯列  
矯正、唇顎口蓋裂などの先天疾患に起因する咬  
合異常・顎変形症の保険矯正など、様々な疾患が  
対象となっています。さらに、矯正装置のニーズも

様々で、従来の床矯正装置、マルチブラケット装置  
などの他、歯科矯正用アンカースクリュー、インビザ  
ライン、マニューバなど、審美性、スピード、痛みを  
考慮した装置の応用も試みています。

各々の診療科で、この様な患者さんに矯正治療  
は出来るのだろうか、矯正治療を併用できれば完  
成度の高い治療ができるのに、などと疑問が生じた  
場合、是非ご相談下さい。教室員一同、良質な診  
療を提供するために頑張ります。心より皆様のご協  
力をお願い申し上げます。

矯正歯科 科長 中納 治久

## 編集後記

ゴールデンウェークは皆様、楽しめましたか？このところ日に日に気候が夏に向かっているのを実感  
します。さて夏といえば、少し早いお知らせですが、7月13日(土)に恒例の健口フェスティバルが開催され  
ます。健口フェスティバル(公開講座)では顎関節症治療科の船登雅彦先生による「アゴが痛い、口が大きく  
開かないのは生活習慣病!？」の講演が行われる予定で、その他については企画中です。

来月号で詳細をお知らせしますのでご期待下さい。

(K.T)